
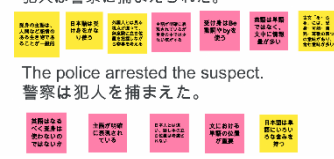


1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立和気閑谷高等学校		
実践者等	浮田 圭一郎	実践日	令和3年9月21日
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	外国語科 コミュニケーション英語Ⅰ		
対象生徒(学年等)	1年生		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	Lesson 6 奇想天外な浮世絵師 重点文法事項：受身		
使用したアプリ等	Jamboard、Forms、スライド等		
実践の概要(ねらい等)	ICTを活用した教科横断型授業。英語の受身と日本語の受身を比較する。両言語の文化背景を知り、学びを深める。後日、国語総合(単元：水の東西)でも別視点から受身を取り扱う。		
実践の内容			
<p>(1) 本時目標の確認「受身表現を通して、英語と日本語とでのモノの見方の違いを考えてみる」 ・英語と日本語(古文を含む)を比較することで、批判的思考力を育成する。</p> <p>(2) 受動態「犯人は警察に捕まえられた」と能動態「警察は犯人を捕まえた」の2つの例文に対して、Jamboardに生徒にイメージ図を描かせる(グループワーク)</p> <p>(3) 教員が模範のイメージ図を提示し、なぜ受動態と能動態でそのようなイメージ図になるかを解説する</p> <div style="text-align: center;"> <p>先生が考えるイメージ図(見本)</p>  <p>犯人は警察に捕まえられた 警察は犯人を捕まえた</p> </div> <p>(4) イメージ図や例文から日英の能動態と受動態の比較をする ・Jamboardに生徒の例文を比較した際の気づきを付箋で貼ってもらい、グループ独自の見解を出してもらう。(グループワーク)</p> <p>(5) 各グループが(4)で出した気づきを発表後、教員が解説を加える ・生徒から様々な意見が出てくる中で、教員からも「英語と日本語では認知の順序が逆である」という点を紹介。日本語は「視点(立ち位置)」に重きを置き、英語は「発信源」に依存するために日本語的な受身表現は存在しない点も述べる。</p> <div style="text-align: center;"> <p>The suspect was arrested by the police. 犯人は警察に捕まえられた。</p>  <p>The police arrested the suspect. 警察は犯人を捕まえた。</p> </div> <p>(6) 最終的な振り返りで新たな気づきなどを入力する ・Formsに教員の意見も参考にしながら記入する。</p> <p>(7) 後日、国語総合(現代文)で比較文化論「水の東西」で日本語の受身表現や文化に触れる。</p>			
参考となるHP等			